

大海へ抜ける秋風大鳥居
 新治筑波と葛の葉の席卷す
 早稲の香や貨物列車の長き列
 ゆつたりと本堂通り鬼蜻蛉
 消えさうな色も加へて秋の虹
 筑波よく晴れてひまはり迷路なり
 車座に旅の終はりの氷菓食ふ
 引く潮に力や土用波高し
 海見ゆる丘涼風を分かちあひ
 満々と水を湛へて蜻蛉の眼
 サーフターの崩れし後を漂へり
 ショーケースにケーキいろいろ終戦日
 鬼の足飛び出て朱し佞武多なり
 栗飯の栗片寄りて炊き上がり
 苦瓜の実り過ぎたる苦笑なり

岡田	鈴木	長島	佐藤	小松	谷中	五十嵐	成井	檜村	白鳥	山口	楠山	森	岡崎	中南
玉江	庸子	亜矢子	洋子	道子	鈴子	暢子	侃	宏子	兼子	はる江	洋子	朝子	桂子	奈奈

花合歡や母眠ること多くなり

鬼灯の袋の中も焰色

音のみが体に響き遠花火

炎暑なり太陽は渦巻き続け

掌に産毛やさしき桃を受く

母の煮し南瓜皮まで柔らかし

一つづつ石積んで城夏の雲

ゆらゆらと昭和の灯り蚊遣香

驚掴みして唐黍の皮を剥く

コスモスの揺れしづまりし白さかな

上流の闇の深まり螢飛ぶ

ふるへつつ月下美人の花咲けり

蟪蛄の身動き出来ぬ身重なり

手の届きさうな夏雲山の駅

湿原の草の濡色夏薊

福澤 涼子

桜井 眞子

江田 実蝶

山中 明子

藤井 美智子

加藤 よう子

山田 さゆり

伊藤 美津子

石川 敬子

西山 美枝子

新井 はつ子

小坪 秀樹

西野 たけし

恒川 絢子

藤田 栄子